

臨時レポート

日米株価動向と今後の見通し

急速な景気回復によるインフレ進行懸念が重荷に

- 5月12日のNYダウは、4月米消費者物価（前年同月比）の高騰を嫌気し、前日比1.99%安。米株下落が東証市場にも波及し、13日の日経平均株価は同2.49%安。
- 株価は当面、景気や物価動向を睨みつつ、値動きの荒い展開になるものとする。
- 物価上昇は一時的と見るF R B（米連邦準備制度理事会）が、金利上昇を抑制する対策を講じる可能性もある。その場合は待機資金の流入が加速し、株価は急反発するものと思われる。

(1) 日米株価の推移

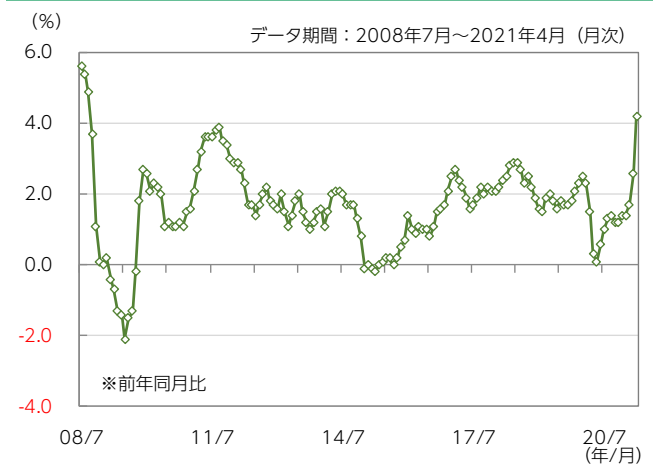
- 5月12日のNYダウは前日比1.99%安の33,587.66ドルで引けました。4月米消費者物価（前年同月比）が+4.2%と12年7ヵ月ぶりの高い伸びとなり（図表1）、米長期金利が急上昇したこと等が嫌気されました。また、ハイテク株の構成比が大きいナスダック総合指数は同2.67%安の13,031.68ポイントで引けました。ナスダック総合指数の史上最高値（4月26日の14,138.77ポイント）からの下落率は7.83%となっています（図表2）。
- 米株安が東京市場にも波及し、13日の日経平均株価は前日比2.49%安の27,448.01円で引け、2021年1月7日以来の水準に下落しました。3日連続安で、この間の下落幅は2,070.33円、下落率は7.01%となりました（図表3）。

(2) 今後の見通し

- 新型コロナウイルスワクチンの接種普及やバイデン政権の経済対策による急速な景気回復でインフレが進行し、F R Bが量的緩和の縮小開始時期を早めるのではないかと懸念が株価の重荷となっているようです。主要企業の2021年1～3月期決算発表がほぼ終了したことから、市場の関心は景気や物価動向に移り、当面はその内容やF R Bの金融政策を巡る思惑で値動きの荒い展開になるものと思われます。
- パウエルF R B議長は、足元の雇用環境等を考慮すると物価の上昇は一時的であり、量的緩和の縮小を議論するのは時期尚早であると繰り返し述べています。物価動向を巡って市場の動揺が続き、長期金利の上昇が加速する場合、景気等への悪影響を考慮し、F R Bは国債買入額の増額等、金利上昇を抑制する対策を講じる可能性もあると考えます。景気回復期待による株価急回復の中で現金のウェイトを高めた投資家や、買い遅れた投資家も多いものと思われます。F R Bが金利上昇を抑制する姿勢を示せば、買入れタイミングを窺っていた資金等の流入が活発化し、市場は急反発するものと見ています。

出所) 図表1～3はブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

図表1：米消費者物価指数の推移



図表2：NYダウとナスダック総合指数の推移



図表3：日経平均株価の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>